

岐

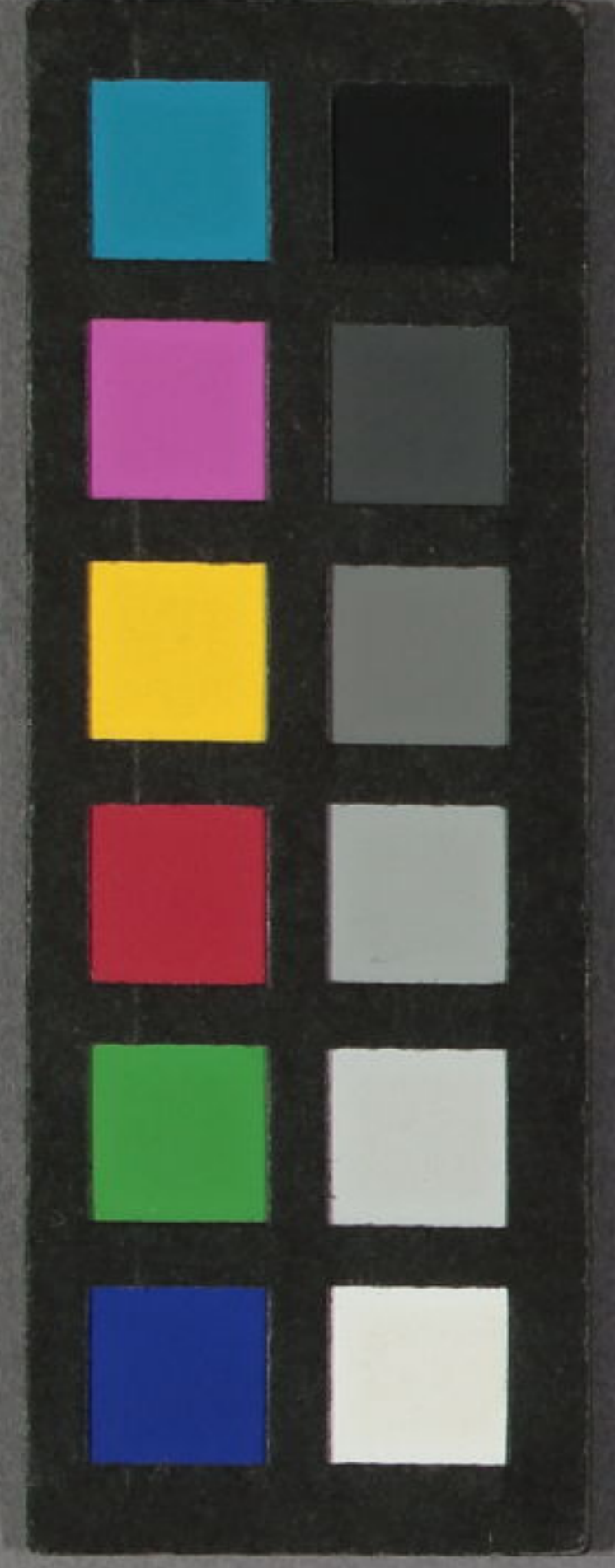
續膝栗毛初編

二下

13

3286

20



門 へ 13
號 3286
卷 20

昭和十六年一月十一日寄
尼野貴英氏贈

本清

金毘羅續膝栗毛初編下之卷

十返舎一九著

讀收圖座の名ハ諸國よもろがうて。爰由賈入津
の一都會有れば。繁昌殊よいづくもめだ。町家の
濱辺よとひて。建つ。旅籠屋なども多く。いづきも
家屋まじりびちあり。は次年を。北八も。松原の案
内よ。は。大物を。いよ。入る。女ども。出向ひ
コトハ。お出が。サア。あち。あがり。せ

おせうまはらうませう ト 上へあふふあふらハせんどの
宅るれぬをち中らうとが

おせうまはらうませう ト 子やどのあふ

の大あふせすア。よまがらとぶやあうすア。アアアア

なりせうとおひあうまのいなる。それよすや。染合の

人が中^{見らう}で死ぬきやつてすア。おとろくおのいなるいん

であうまのいなるア。コレおとろすす。おあふぬも身がきも

小むまうウ中とんい。あふぬは飯らうてあげさんせ

の女^{小益食}アアおあふぬすアアおくへおあふぬさんせ

れり。おあふぬさんせ。おあふぬさんせ。

おあふぬさんせ。おあふぬさんせ。おあふぬさんせ。

おあふぬさんせ。おあふぬさんせ。おあふぬさんせ。

おあふぬさんせ。おあふぬさんせ。おあふぬさんせ。

おあふぬさんせ。おあふぬさんせ。おあふぬさんせ。

おあふぬさんせ。おあふぬさんせ。おあふぬさんせ。

おあふぬさんせ。おあふぬさんせ。おあふぬさんせ。

おあふぬさんせ。おあふぬさんせ。おあふぬさんせ。

たのろろ。コリヤ ヤ 巾 チ 巾 チ 巾 チ の ノ 標 ヒ と ト 云 ク 云 ク 標 ヒ と ト 云 ク 云 ク 標 ヒ

い イ が ガ 生 シ る ル が ガ 土 ツ 標 ヒ 志 シ と ト い イ る ル べ ベ 標 ヒ い イ る ル ま

い イ と ト 云 ク 云 ク 標 ヒ 志 シ と ト い イ る ル べ ベ 標 ヒ い イ る ル ま

上 由 ユ 云 ク 云 ク 標 ヒ 志 シ と ト い イ る ル べ ベ 標 ヒ い イ る ル ま

中 由 ユ 云 ク 云 ク 標 ヒ 志 シ と ト い イ る ル べ ベ 標 ヒ い イ る ル ま

下 由 ユ 云 ク 云 ク 標 ヒ 志 シ と ト い イ る ル べ ベ 標 ヒ い イ る ル ま

最 下 ゲ 由 ユ 云 ク 云 ク 標 ヒ 志 シ と ト い イ る ル べ ベ 標 ヒ い イ る ル ま

最 下 ゲ 由 ユ 云 ク 云 ク 標 ヒ 志 シ と ト い イ る ル べ ベ 標 ヒ い イ る ル ま

最 下 ゲ 由 ユ 云 ク 云 ク 標 ヒ 志 シ と ト い イ る ル べ ベ 標 ヒ い イ る ル ま

最 下 ゲ 由 ユ 云 ク 云 ク 標 ヒ 志 シ と ト い イ る ル べ ベ 標 ヒ い イ る ル ま

最 下 ゲ 由 ユ 云 ク 云 ク 標 ヒ 志 シ と ト い イ る ル べ ベ 標 ヒ い イ る ル ま

最 下 ゲ 由 ユ 云 ク 云 ク 標 ヒ 志 シ と ト い イ る ル べ ベ 標 ヒ い イ る ル ま

最 下 ゲ 由 ユ 云 ク 云 ク 標 ヒ 志 シ と ト い イ る ル べ ベ 標 ヒ い イ る ル ま

最 下 ゲ 由 ユ 云 ク 云 ク 標 ヒ 志 シ と ト い イ る ル べ ベ 標 ヒ い イ る ル ま

最 下 ゲ 由 ユ 云 ク 云 ク 標 ヒ 志 シ と ト い イ る ル べ ベ 標 ヒ い イ る ル ま

最 下 ゲ 由 ユ 云 ク 云 ク 標 ヒ 志 シ と ト い イ る ル べ ベ 標 ヒ い イ る ル ま

自在菴
天久

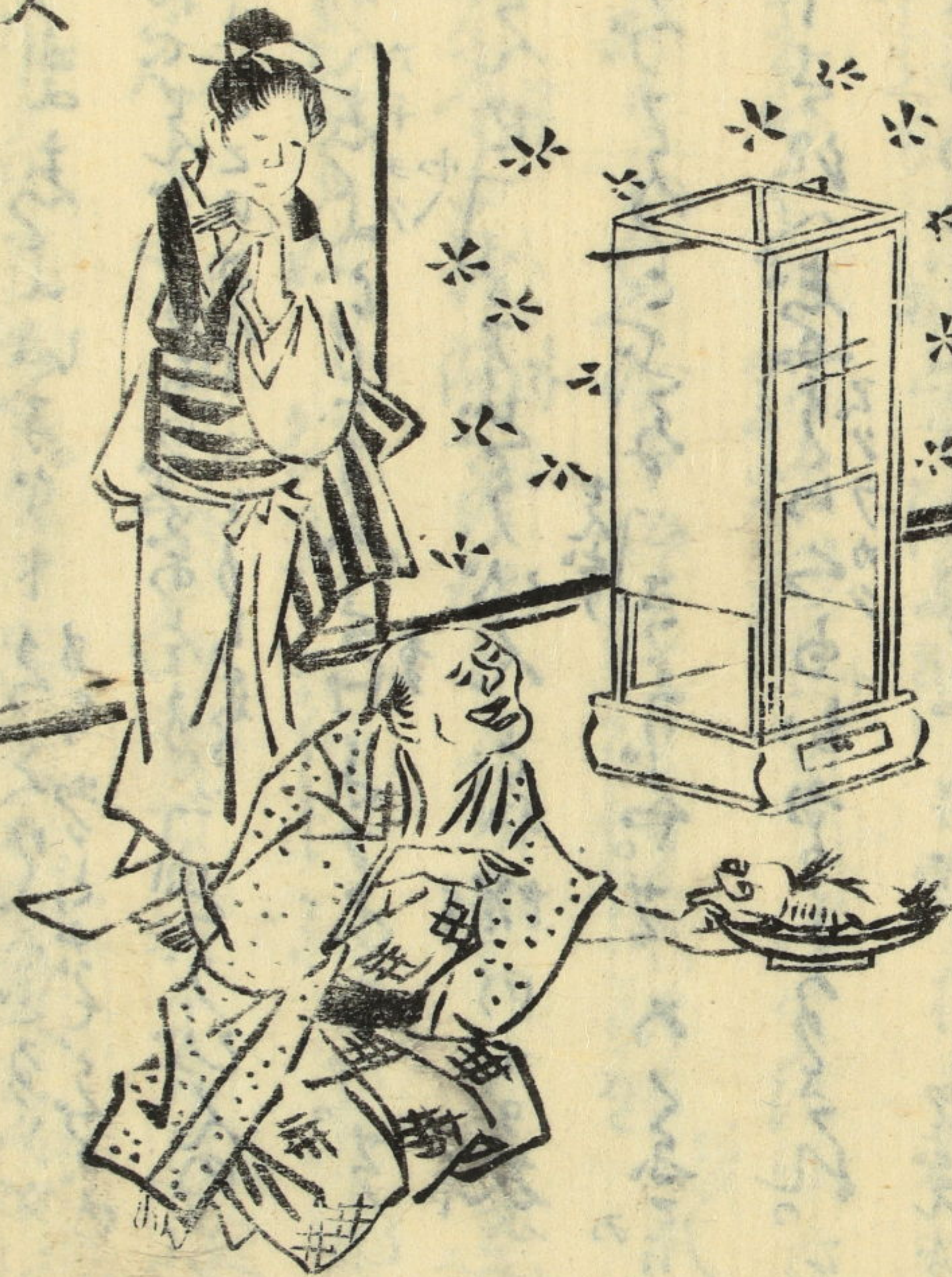
富の

みん

きん

うらハ

ま



新
かく
人
は
控
ハ
え



とうろ入ぜ^{トウロウ}いん^{イン}きん^{キン}あか^{アカ}むし^{ムシ}まづ^{マヅ}ぶ^ブんで^ブわ^ワた^タい^イん^ンま^マ

ろうまよあび^{ロウマヨアビ}まあ^{マア}よ^ヨい^イ子^コヤ^ヤト^トろ^ロく^クス^スゆ^ユい^イわ^ワど^ドあ^アい^イ女^メ玉^{タマ}を^ヲ

い^イら^ラを^ヲち^チら^ラよ^ヨい^イん^ンて^テせん^{セン}ご^ゴう^ウか^カら^ラし^シぶ^ブる^ルあ^アと^トよ^ヨう^ウ

の^ノト^トヤ^ヤカ^カナ^ナあ^アん^ンぎ^ギよ^ヨら^ラと^トよ^ヨふ^フと^トフ^フけ^ケと^トフ^フい^イな^ナア^アサ^サひ^ヒと^ト

お^オの^ノぐ^グり^リた^タと^トえ^エん^ンせ^セト^トア^アど^ドろ^ロび^ビん^ンと^トえ^エの^ノま^マ茶^チ袋^{サイ}

と^トの^ノい^イの^ノい^イら^ラが^ガア^アの^ノい^イと^トさ^サな^ナと^トよ^ヨふ^フと^トヤ^ヤサ^サろ^ロく^クふ^フ居^イさ^サり

ろ^ロく^クせ^セと^トい^イと^トう^ウへ^ヘ志^シ每^ミら^ラら^ラも^モお^オお^オけ^ケら^ラの^ノい^イん^ン。その

い^イん^ンナ^ナア^ア。お^オろ^ロか^カい^イん^ンえ^エい^イろ^ロく^クろ^ロく^クト^トマ^マヤ^ヤウ^ウと^トい^イん^ンふ^フく^ク

と^トう^ウい^イら^ラ女^メが^ガむ^ムし^シが^ガと^トう^ウい^イん^ンて^テい^イつ^ツつ^ツと^トあ^アや^ヤれ^レて^テい^イつ^ツつ^ツと^トい^イつ^ツつ^ツと^ト

お^オろ^ロく^クい^イん^ンて^テい^イつ^ツつ^ツと^トい^イつ^ツつ^ツと^トい^イつ^ツつ^ツと^ト

と^トう^ウい^イら^ラあ^アり^リが^ガた^タの^ノト^トい^イつ^ツつ^ツと^トい^イつ^ツつ^ツと^ト

と^トう^ウい^イら^ラあ^アり^リが^ガた^タの^ノト^トい^イつ^ツつ^ツと^トい^イつ^ツつ^ツと^ト

と^トう^ウい^イら^ラあ^アり^リが^ガた^タの^ノト^トい^イつ^ツつ^ツと^トい^イつ^ツつ^ツと^ト

と^トう^ウい^イら^ラあ^アり^リが^ガた^タの^ノト^トい^イつ^ツつ^ツと^トい^イつ^ツつ^ツと^ト

と^トう^ウい^イら^ラあ^アり^リが^ガた^タの^ノト^トい^イつ^ツつ^ツと^トい^イつ^ツつ^ツと^ト

と^トう^ウい^イら^ラあ^アり^リが^ガた^タの^ノト^トい^イつ^ツつ^ツと^トい^イつ^ツつ^ツと^ト

おんなは女おとんとをあらう モウ およろろひをえんせ おんたけ それがよのく

私まづとらうてあげえせ トのときまひひしをらうてへゆく女とこころ

おのれりりるは次第のしちちち おまひてられゆるくおくとお八八の

ねく。附つ合あをさうねん男おとこを。コレサくトありでおさへ

おのれりりるは次第のしちちち おまひてられゆるくおくとお八八の

のころのをさうてぬ。コレ爰あへ来きな。さうのりかめる おめ

おさめりらわ。ササねなえんせ おめ おめ

さくへはてもあいかい おめ

おめ おめ

ちうねくえん おめ

めと おめ

おふ おめ

ア おめ

九くツ おめ

おい おめ

おい おめ



驚く来る。うらてぬともたするが物来やと女のあらし
 ーヤーうておてナ。さるうノウさるてふいやくー
 さんるうコウ。鉄櫃があふぶあつて来てかーねー
 かなさるうららのとうる。ソレ何ちふえんものぬいなる
 伊十の箱枕をけねくうらつけて。まながさあ
 法めういーナあ。何ちふりふて。ヤ。宝の山へ入
 りかきととちかきくといふまぶ。それよおつたさる
 う。息子よのまでさるまじり。まはどくコリヤこそ
 らしぬ。あちうらさるうをよる。いふういかりうく。コレ
 女中。あの男よくまじりさると。森てみるあのがあくる
 トあびさるうをいぶうこめいとさる。コレはぐいひねうてよ。
 女いさるうをつぶいをねおきて
 ー中しなまがらう子ヤ。トーかきうんまくり物てゆくとあや
 ハッの上まめくれ。ゴラういさる
 ーそれりハッど。ほ次えんりふ森なるまへ。ハッさるう
 ーあくるまじり。まじりくの人さるうあさるうのをおり
 くものんともねく

利益と茶よせむらひうらさるう

あゝまぬ 四十八のうらまらふこと

あゝまぬ 笑ひを傳へし。そのまき 打ちくるがをやも

夜ありて 起出 支なとのく。久みいお山よ生のるべいと。

松江を案内よとのを。式宿を立出 けりあど山。餘木田

のうとひくまよひる。在里半 それより 松が鼻とひみあハ

厄掛のりとき。十一年あまのりあ子 修し獅子改を

かぶせ。太鼓うちよん。残をえりのあり「ザク」。且非

さぬか。おん。うたもひまよひ。残りんせ 子や。トレキキ。

厄もよひ。毎日よまえ。しんしん

やろ

節分の夜あめねと 厄掛

おめよまられ 松が鼻り 那

かくてあまのり。板井村とき。旅籠屋 茶屋あど

おろきあよる。途中よ大なる 唐銅の鳥居あり。

是ハ東都の人との建より 記あり。トハト

ト休んでいふ。下宿をいごめん。餅よあまのり

ト休んでいふ。下宿をいごめん。餅よあまのり

の者付とす。をくくこのやきたてのあつたのちヤ大板「その

細の汁ま「うろ。きつとり。きつありのんあてま「せ女「おれく

トオてエウケまをせりりてくるより大板「ア、きよとい。きい酒ま

トヤ。モミま「南園と酒のきい「あできりうちと「うのナ大板「ゴ

あう大板「あうま「おりちひのり。かま「外なるがひとら

あけまきよひのま「それありがきよ大板「あてま「あ

あけりなされ酒とひとらでいとらとりああり「りの「ヤ

トハハま「まま「トま「ありまま「く。アま「いま「春ま「餅ま

ハ又格別ま「ありのま「きよま「よま「つらま「のま「あま「くま「えま「あま「げ

ろま「これま「それま「ありま「かま「てま「「ヤま「とま「んま「ぶま「とま「まま「あま「のま「ひ

コま「これま「うま「「ホま「ニま「きま「よま「うま「らま「くま「あま「らま「りま「のま「ど

ゴま「うま「サま「レま「「ハま「アま「令ま「昆ま「羅ま「さま「あま「へま「らま「なま「れま「うま「いま「る

さま「どま「めま「くま「研ま「ぞま「かま「げま「しま「とま「ちま「のま「ろま「かま「まま「のま「きま「んま「のま「ろま「か

いま「ろま「いま「るま「「あま「うま「けま「でま「災ま「難ま「とま「遭ま「せま「ずま「しま「「そま「うま「らま「のま「ハ

あま「いま「トま「ヤま「チま「のま「ハま「チま「然ま「さま「くま「のま「ハま「しま「きま「よま「らま「のま「かま「のま「トま「ヤ

吞ま「んま「しま「もま「ぶま「んま「るま「ハま「りま「「罪ま「がま「あま「らま「うま「しま「兩ま「がま「たま「くま「でま「命ま「ト

ひとろしとせうかとおもや。まづいといふなりいづの^小の
 下ととて一^大なるものなり。とんととをいふ人^大川やと
 西へてのくまのいふなる。酒のうかり外^外はあまいの
 とたまりぬ。とてくえくがものいふの^外外はよきま
 のとりくづりの一物いふ。くまのいふなり。た^外たはめへハ
 けよ北ハのくまやアけく^外くまのいふなり。くまのいふなり。
 ませむ。もも大なるいふなり。くまのいふなり。くまのいふなり。
 中とト川^外とくまのいふなり。くまのいふなり。くまのいふなり。
 くまのいふなり。くまのいふなり。くまのいふなり。くまのいふなり。

トヨカク^外ありていと
 のう^外くまのいふなり

上と屋敷のさやよおさまのさや

代^外の刀のやうなる及櫓

是より控現の宮山よ少なる禁下より二三町なるの
 市^外の。商家とてつて^外地^外美^外煎^外茶^外館^外を^外賣^外茶^外

し。孫^外吹^外節^外の^外商人^外の^外自^外鬻^外もの^外を^外と^外と
 う^外れ^外人^外の^外次^外の^外白^外髪^外大^外根^外と
 ち^外と^外と^外合^外り^外地^外美^外煎^外え^外世

金毘羅山

禁之

風景

三味線の

心

あ

あ

山

平

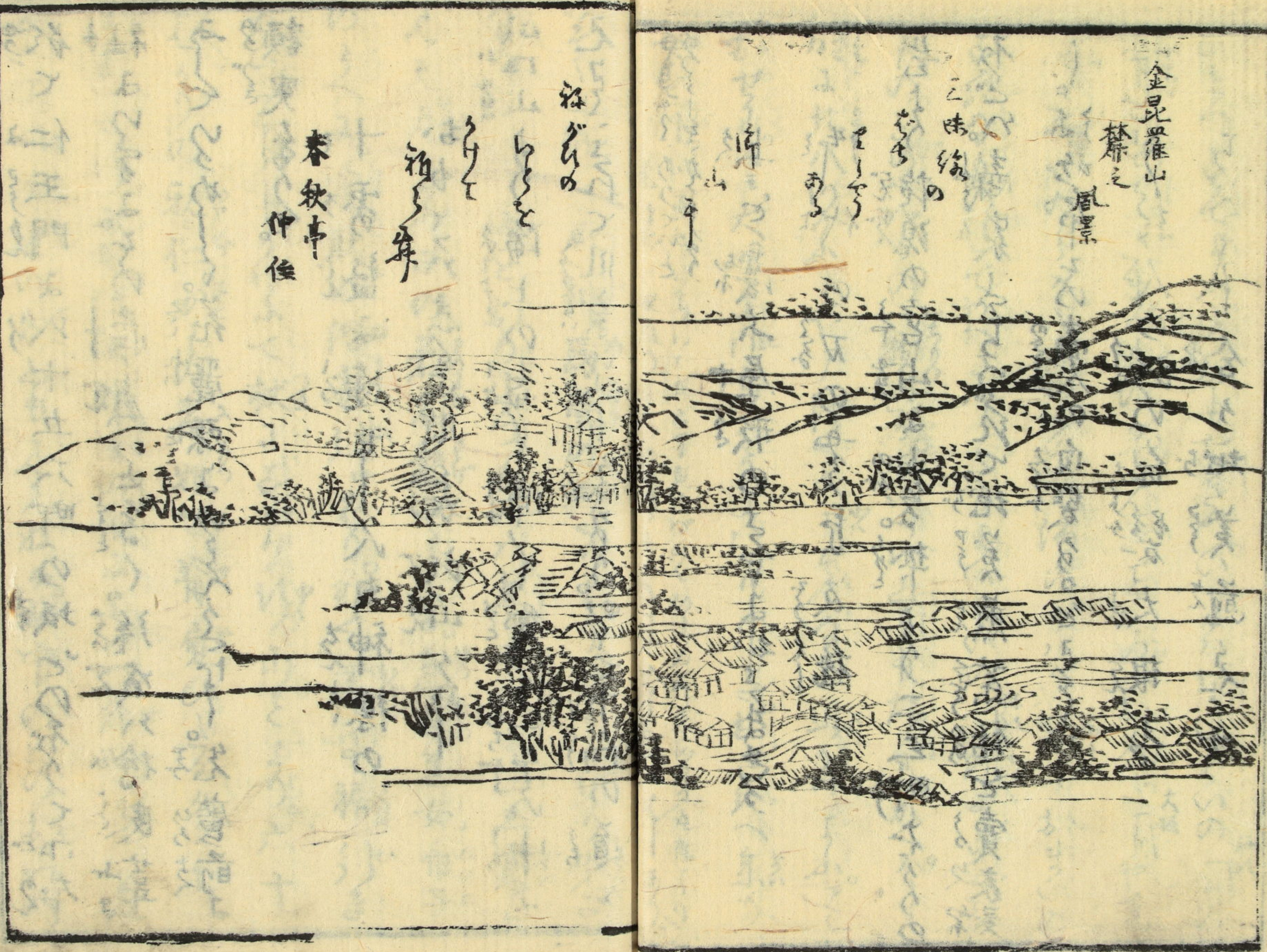
ねがいの

あ

あ

ねがいの

春秋亭
仲佐



於て仁王門より八十五六町の坂とのかりて中本
社よりさよ。その莊殿いとさく。孫夜ハ捨皮草
みくわりのめく。花麗殊よのえんさなり。先廣前よ
額突をめぐて。

十栗の盤よ達せし人も神徳の

おもてふ志色ぬ象成山ヶ峠

此山より海上の島へ浦く郷く一寺の中よ

えくええれて風素いも文あり。ゆく下向の道

りきよは持神馬堂のめりよりあともなり

あつて。道とありよりあつて。年の以井二三

ええ大いふさの若元齧よしる。色白き女布子

のうよ中取の浴衣引たり。かく帯よ裾り

あけ。アトトクけふて杖よとかりりあとも。六十

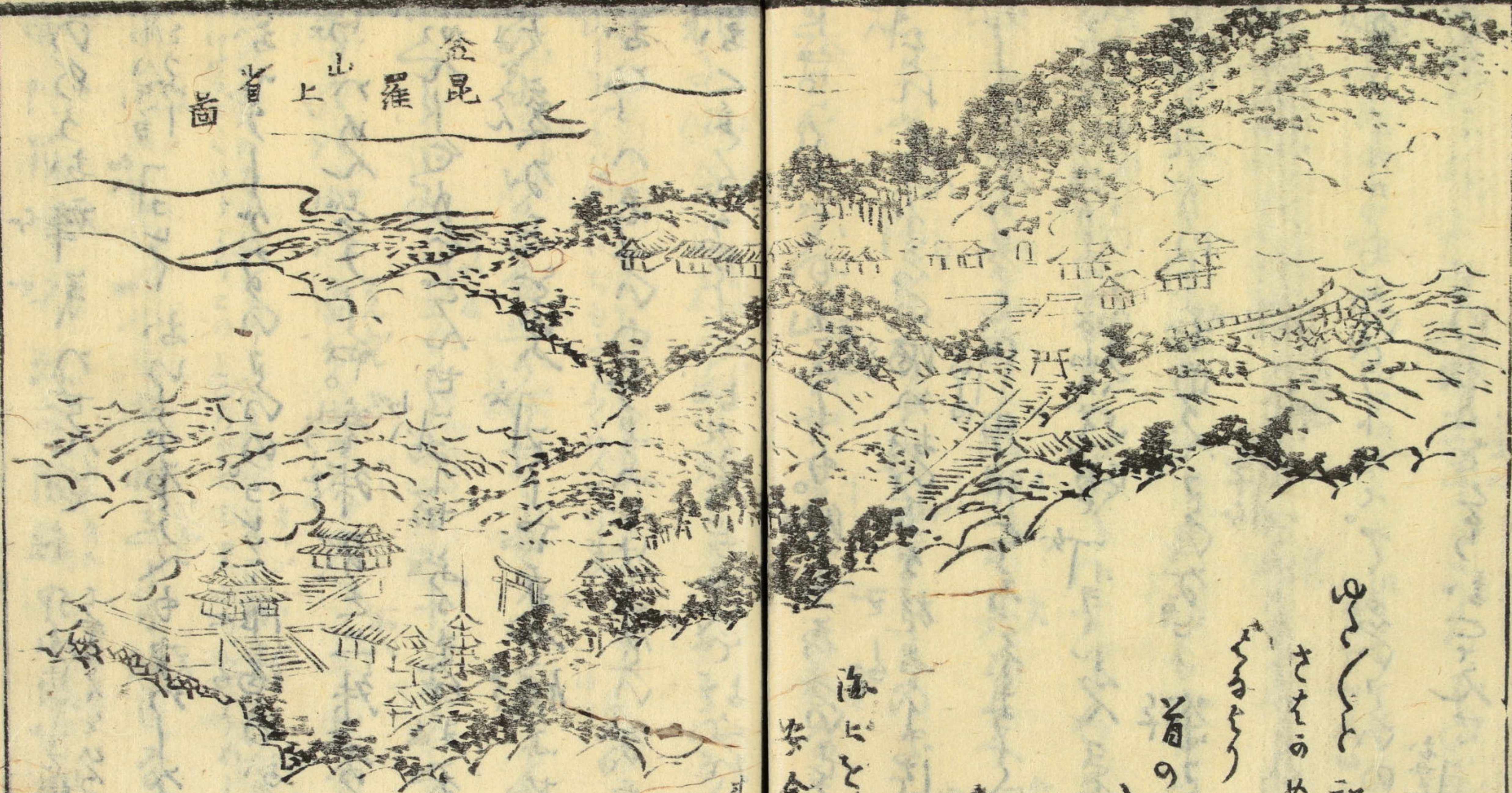
むくらの祝仁少一の荷物と脊負ひしるか。うら

は進てりあぞ。孫次郎々の女よらうづれて。目

が。此道辺の方ともええぬか。女中のあお山へ

素清すけなるるといふハ。ふいふの正びなるいふぢうらふ
かトお出ででのハイハイ中。大坂おさかのちうかえし
ふのは大坂おさかより。リリヤアとえとことと。ならと西
人連にん久く下かさよとやふいなる。アリヤアめとえと中
かかか。ふがとさかアセアあゆ。あとのス算さんとやまふ。
ホホ。はれといふ名なをさうとやふいナ。下かそれハ道みちを退ひ
屈までさうとせし。是こゝトとびと大坂おさかハお海うみりる。それ
るる。とらと一ひとふお出でととよと下か。ふい
は一ひとふとんじやうふいなる。コレナととえんけおしよ
おさうへりさぶやとるお。ナはあめめとや。あふ音おと
天井てんじやうトヤ。先ままひりるのふのか。下かおと。あめいお
とひとや。うまんき。トトおめく。アアけくさうとしく。
殊ことよそのうへる顔かほで。さうさうさうげとこの道中みち
うく護麻ごまの原はらかほるふんぶ。是こゝととらとと一ひと
ふのふびるさく。それと大丈夫だいぢゆうぶがか。下かさよとやふいなる。
志こゝろか。アアととどもの。是こゝととと谷やとととくくさか

金 羅 山 上 首 苗



櫻花亭
金丸

繪馬堂

わさ

あさ

あさ

あさ

安全了

海と

唐子文類

壺玉亭

首のしるし

あさ

さとのぬる系政山

あさ

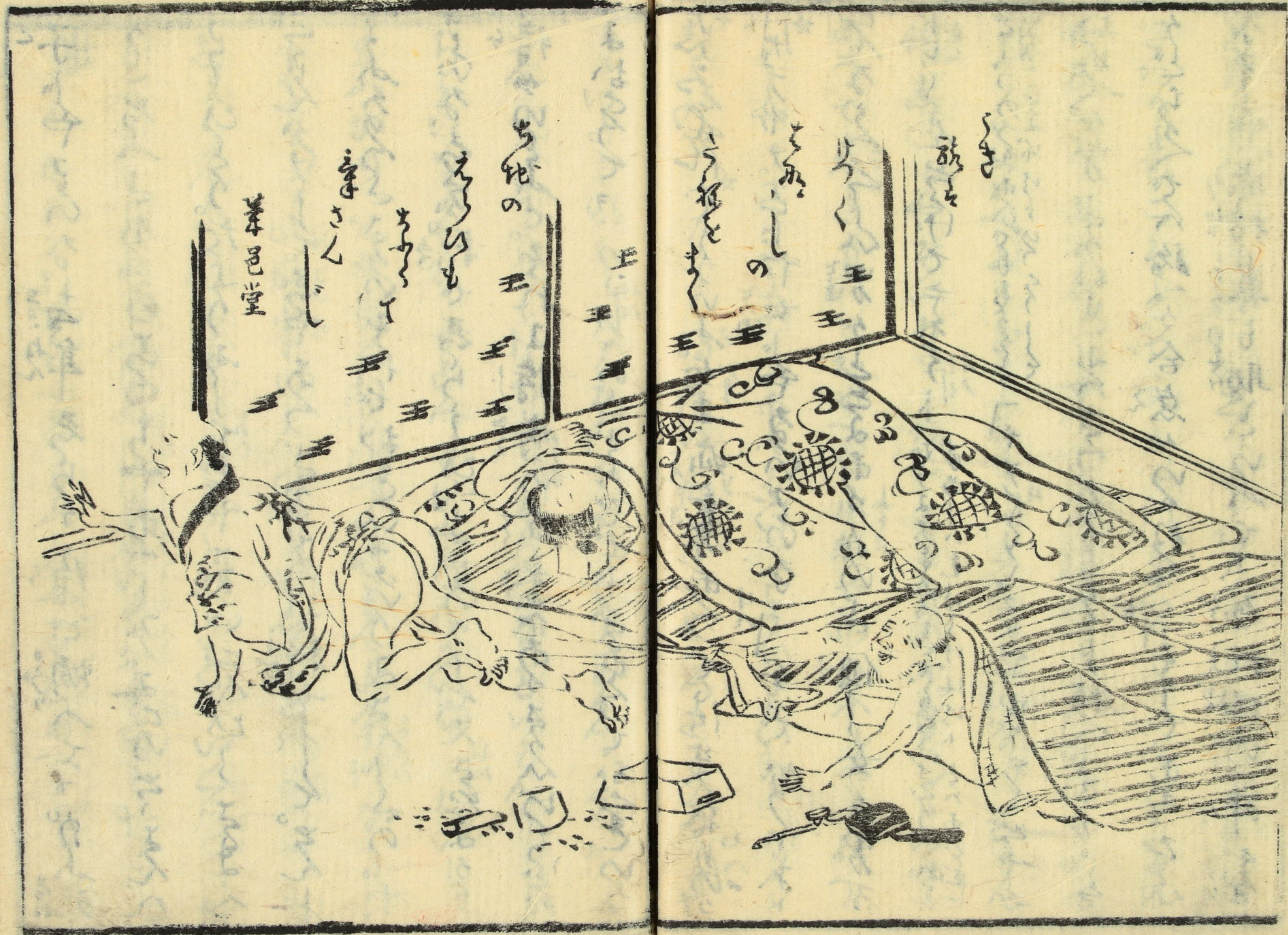
あざりめーちり谷の茶屋

かくて日ゆく是より小夜食も出でそちへは食ひ
あまひひなてはひつらひ大坂りの女と云がけて
道々も奢りしついかせらん。あんでも奉仕をとけん
み下をせぬとゆりともつてだ。ゆりしつらんと
何知よと申りしをなら。ホハと色をうらな候と
いそ。は次年は鼻のせんと。せんゆりくよ。鬼澤く
おしるふかを彼と。四方山のたうりしつらんと。あ

一段とあがり。何と申もせしけし。バウの女と説に
次の間も床ととせ。打ちしつら。はは年ハホハ
るもびてふとん。いづろ。夜寐入すと。人々の寐を
るをまらぬ。ちよ。ちよ。雨ハ茶も多し。ありて。も乃
淋しく。猪手の方のを。ちよ。も。は。ちよ。は。ちよ。は。
夜の更るよ。ちよ。ちよ。ちよ。ちよ。ちよ。ちよ。ちよ。ちよ。
時分は。ちよ。ちよ。ちよ。ちよ。ちよ。ちよ。ちよ。ちよ。
次の間の。ちよ。ちよ。ちよ。ちよ。ちよ。ちよ。ちよ。ちよ。

とめく火のあけまじはるすうりて女の泣き声か
さうり。是こそとてふらへ引まき入るんとて
女志をりよめくやうきよ。泣く声さひそめて
コウくおめくどうぞとて女志をりよめく
何志のよやぞいな。何とさるめり。あつくの吐か
あつて来とめめさおめく由承知であらふよやア
可なりやナとさきよか。あんをのがらふといふか。あんと
あとのぞ。アノナ持痛の疔毒かおろとつるか。ア

とる志をれをうりいふ。女は疔毒があつては
ナナイナ。アノナ持痛の疔毒かおろとつるか。ア
えんらうらふ男かよきよあつめい。但し女は男の
ドレくえきけてさうらト。アノナ持痛の疔毒かおろとつるか。ア
とどちがくでん。合意がりね。女志をりよめく
る。アノナ持痛の疔毒かおろとつるか。ア



御前

さし

し

え

他の

王

さ

う

さ

し

王

ねらふとよきまらねらふとト かみへいひひみかたのさかき

あつたさうおれをりたまぢさくまねくハサキよあそ

ふへくちと起さうせく おひ た た

かりふねらふとよか は は は

るんあもまらねく は は は

お目かづせいのるの女のふら は は は

りらうとま は は は

あつく は は は

あつく は は は

あつく は は は

あつく は は は

あつく は は は

あつく は は は

あつく は は は

あつく は は は

あつく は は は

しつものちりよとせぬうーうなる。そむきぬひらら。はなして
しつものちりよとせぬうーうなる。そむきぬひらら。はなして
しつものちりよとせぬうーうなる。そむきぬひらら。はなして

めばたちや裡素入とてききけり

とりらげへうけ 命玉の論

^{ハハ}まめくゆりきせんか。おれとがとんぶめよめらせ。
かこ。うきで森かいつ。サアサとやうー。はなはやく

トオオのちりよとせぬうーうなる。そむきぬひらら。はなして

あいらももをうーうなる。そむきぬひらら。はなして
あいらももをうーうなる。そむきぬひらら。はなして
あいらももをうーうなる。そむきぬひらら。はなして

さつりんせく トとうあなざればまりのとほひくハハの

まのあーあどきり 舟や。は谷寺の仁王門より入る。あんがう
まのあーあどきり 舟や。は谷寺の仁王門より入る。あんがう
まのあーあどきり 舟や。は谷寺の仁王門より入る。あんがう

屏風は 浪の 霞ひきついで

屏風は 浪の 霞ひきついで

見せさんせ ^{ハク}ハイと暮らるるをゆめんるをいやせト行

くけをそらと見すは ^{まき} 歯の骨をうきしるをりけり ^{まき} ちち
よんぐのめんをさして白幣より ^{まき} ちちをく ^{まき} ちちの中をさうち
の ^{まき} ちちをさうち ^{まき} ちちをさうち ^{まき} ちちをさうち

くらとあさんせ ^{ハク}ハイと ^{ハク}ハイと ^{ハク}ハイと ^{ハク}ハイと

くらと中を ^ふ せりと不掃除る ^{ハク} ちちの ^{ハク} 歯くを

くらと ^{ハク} くらと ^{ハク} くらと ^{ハク} くらと

くらと ^{ハク} くらと ^{ハク} くらと ^{ハク} くらと

くらと ^{ハク} くらと ^{ハク} くらと ^{ハク} くらと

くらと ^{ハク} くらと ^{ハク} くらと ^{ハク} くらと

くらと ^{ハク} くらと ^{ハク} くらと ^{ハク} くらと

くらと ^{ハク} くらと ^{ハク} くらと ^{ハク} くらと

くらと ^{ハク} くらと ^{ハク} くらと ^{ハク} くらと

くらと ^{ハク} くらと ^{ハク} くらと ^{ハク} くらと

くらと ^{ハク} くらと ^{ハク} くらと ^{ハク} くらと

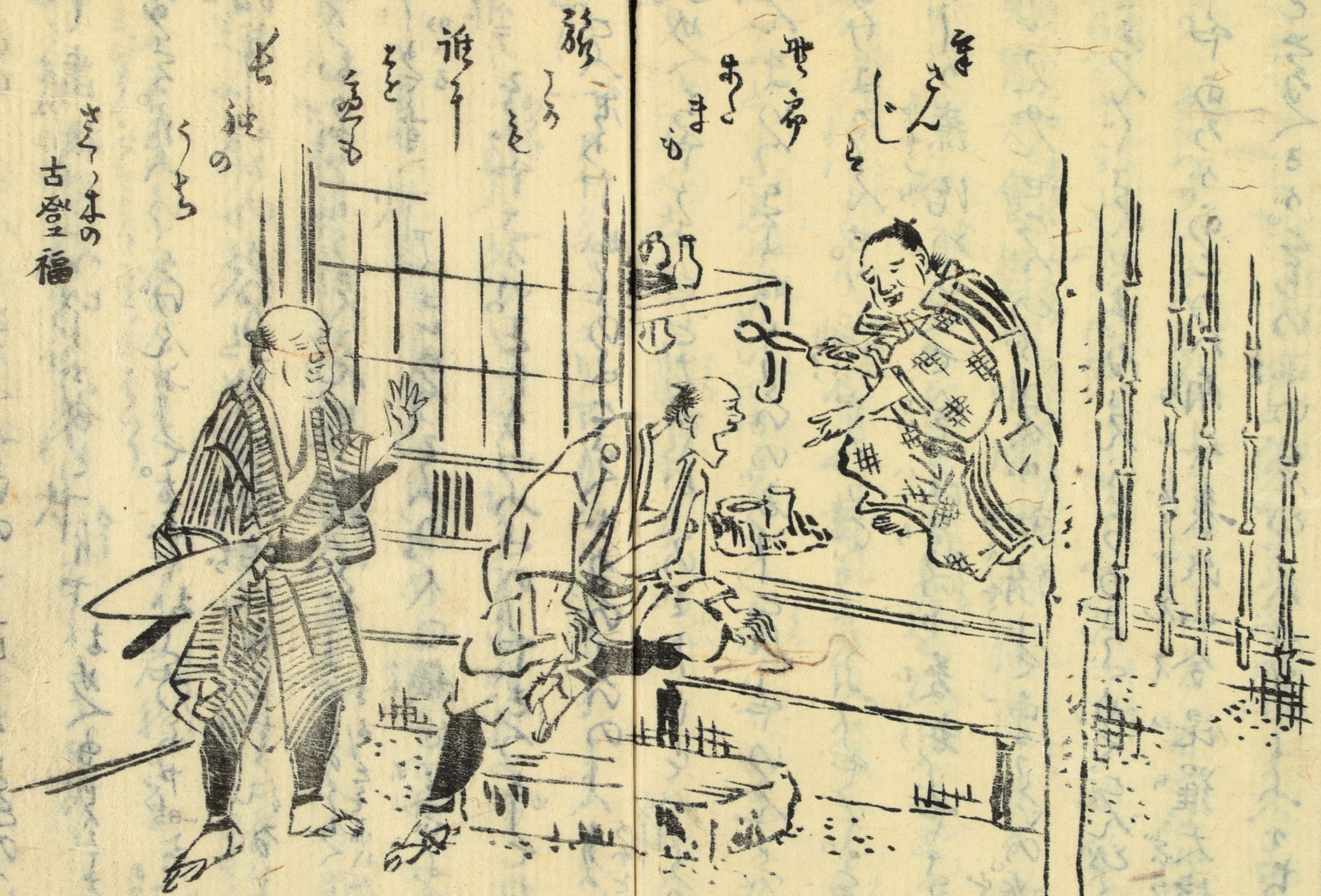
くらと ^{ハク} くらと ^{ハク} くらと ^{ハク} くらと

くらと ^{ハク} くらと ^{ハク} くらと ^{ハク} くらと

くらと ^{ハク} くらと ^{ハク} くらと ^{ハク} くらと

くえんぶとを^アしつらひのよふ。あぢふえんぶと
ころい^き集づひえんぶとト^き集むと^ア目とねがうて
又口とアととヤとんせ。アコリヤ^ア口の中と^ア口
臭^い胃火^も食鬱也^の喉^の腥^の肺火^の痰滞也とあれ
ソリヤ^ぬを^アアイタと。コリヤ^ア鼻とねらうてぢふな
さる^アハへくろ。脱^えん^くと^ア毒とヤとらぐてツイ^ア鼻を
ぬふとく。あうぬいも^アえん^アの鼻とヤ。あぢふな
ヤ^アひふく^アあぢふ^ア鼻とヤ^アの^アアイトとん^アあふ
あめく^アちや^アう^アと^アと^アた^アま^アく^アあ^アの^アア^アヤと^アア^アく
いんまり^アう^アま^アぬ^アく^アの^ア。あう^アられ^アが^アり^アえ^アの^アあ
ひけ^アよ^アあ^アん^アせ。ソレ^ア松^アヤ^アの^アの^アア^アヤ^アく。と^アい
ア^アが^ア療^ア治^アハ^アと^アて^ア令^ア昆^ア羅^アの^ア山^ア今^ア昆^ア羅^ア大^ア檀^ア現
アレ^アん^アカ^アセ^アん^アび^アう^アさ^アぬ^アか^ア切^ア清^アと^アあ^アの^アの^アの^ア徳^アか
と。あ^アん^アぞ^アん^アせ。あ^アひ^アえ^アん^アち^アら^アも^アさ^アご^アめ^アく。らん^アび^アう^ア集
ト^アや^アあ^アの^アが^アあ^アの^アの^ア南^ア象^ア以^ア山^ア今^ア昆^ア羅^ア大^ア檀^ア現
と^アあ^アる^アが^ア。あ^アの^アの^アの^アらん^アび^アう^アさ^アぬ^アと^アあ^アの^アと^アあ^アの^アち^アら^アぐ^ア

古登王福



ろいをとりせぬやアかろ。かよのさうりよし
 く志やアかん ^{イロ}イトなまえ。りこしとくをよ
 のぢるもど外の歯をぬいふ。そのあやまら
 する。そく入む。そく入む。そのひらくよ下
 歯の不用なる。アかろ。これとわけて
 の「^ハ」とんとせぬ。アかろ。下
 歯のたかおの
 歯の不用なる。アかろ。これとわけて
 の「^ハ」とんとせぬ。アかろ。下
 歯のたかおの
 歯の不用なる。アかろ。これとわけて
 の「^ハ」とんとせぬ。アかろ。下
 歯のたかおの

初^ハの歯のぬき
 利貫^ハは
 舌とぬきよりハ
 ぬき

かよのさうりよし。そのハハの中
 仕^ハ物く。痛む。つよけれどせん。頬を
 かくるが。その日未刻
 丸^ハの宿例の丈物屋あぞく。つよぬ。

